

第6回フレッシュャーズカンファランス（医療薬学会）

口頭発表

専門医療機関連携薬局のがん薬物治療に対する薬学的介入の実態とその評価

総合メディカル株式会社 そうごう薬局 天神中央店

本田 雅志

【目的】そうごう薬局天神中央店（以下、当薬局）では、これまで薬薬連携の強化やがん患者対応の標準化など、様々な取り組みを行っており、専門医療機関連携薬局の認定も受けている。今回、がん患者を対象に医師へ処方提案した事例を調査し、薬剤師の介入成果について評価することとした。

【方法】2021年6月～2022年5月に、がん患者の処方に対して医師に行った疑義照会、トレーシングレポート（以下、TR）、処方提案件数、提案の採択の有無、転帰をそれぞれ調査・分析した。

【結果】該当期間内に、外来がん薬物治療患者392名が延べ2,286回来局していた。疑義照会での処方提案は47人に49回行っており、うち34回（69.4%）の提案が採択されていた。また、TRを提出した222人のうち、処方提案は62人に108回行い、59件（54.6%）が採択されていた。さらに、薬剤師の提案により処方変更された患者の転帰を調査した結果、改善または現状維持と判定できたのは疑義照会で27件（79.4%）、TRで51件（86.4%）であった。

【考察】今回、薬学的専門性を活かした医師への処方提案により、多くの患者の転帰が改善・現状維持となっていたことなど、薬剤師の介入成果を明らかにすることができた。今後は、他の専門医療機関連携薬局についても、同様の調査研究を行っていきたいと考えている。